

危機の状況

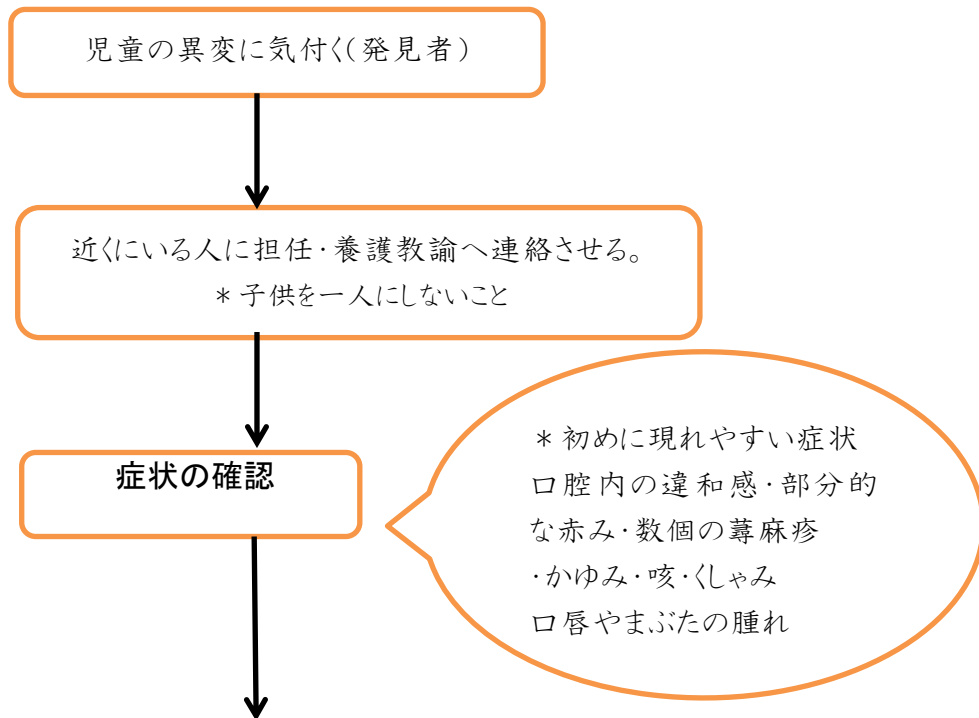
食物アレルギーが発生した場合

1 危機対応の方向性

- 1 児童の状況を確認し、管理職、養護教諭に報告する。
- 2 児童の様子を確認し、移動できる状況であれば保健室に搬送する。
- 3 薬を預かっている児童は投与し、時系列での状況を記録する。
- 4 救急車を要請する必要があると判断した場合は速やかに要請する。
- 5 児童の容体を確認し、保護者に連絡する。

2 危機対応の具体

食物アレルギー発症時の対応について



<初期対応> 必ず軽度でも管理職、保護者へ連絡する。

アレルギーの原因となるものを口にした。 → できるだけ吐かせ、口をすすがせる。

アレルギーのもとになるものが皮膚に付いた。 → その部位をよく洗い流す。

- ・即時型は、食後5分から2時間程度、特に30分以内に生じることが多い。
- ・短時間で急変することがあるので、軽度であっても必ず少なくとも1時間は経過観察を行う。
- ・運動により症状が悪化することがあるため、安静にさせる。

＜受診の見極めポイント＞

- ・上記＊初めに現れやすい症状の改善がみられない場合
- ・咳が続く。
- ・1 から2回の嘔吐、下痢中等度のおなかの痛み。
- ・顔全体の腫れ、まぶたの腫れ
- ・皮膚の強いかゆみ、全身に広がる蕁麻疹、全身がまっかになる。

＜エピペン使用と救急車要請の見極めポイント＞

- ・全身の症状→ぐったり・意識もうろう・失禁・脈の異常・顔面蒼白
- ・呼吸器の症状→のどや胸がしめつけられる・ゼーゼーする呼吸
声のかすれ・激しい咳・息がしにくい
- ・消化器の症状→繰り返す嘔吐・激しい腹痛

【エピペン使用時の注意】

- ・大人3人以上で対応する。
- ・子どもが安心する声かけをする。
- ・あわてず、おちつく(ケースからエピペンを出し、グーでにぎってキャップを外す。)
- ・太ももの外側に軽く押しあてる。こどもが動くので、押さえる。
- ・強く押し、ゆっくり5秒、数える、ゆっくり抜く。
- ・エピペンをケースに戻す。